

2024年 2月期・Q1

決算補足資料 2024年 2月期

July 14th, 2023

東証プライム 7599
IDOM Inc.

株式会社IDOM CFOの西端です。
2024年2月期の第1四半期の決算についてご説明します。

1. 2024年 2月期 第1四半期実績	-3
2. APPENDIX	-17
3. 業績・財務の補足情報	-21



FY2024 Financials

1. 2024年2月期 第1四半期実績

Gulliver

IDOM Inc.

決算

過去最高小売台数

小売台数

39,266台
前期比+4.6%

卸売台数

34,318台
前期比+18.4%

- 直営店の小売台数は過去最高を記録。
- 大型店の店舗当たりの小売台数は好調に推移。

決算

連結
売上高・営業利益
が減収減益

売上高

1,053億円
前期比▲22.4%

営業利益

28億円
前期比▲47.3%

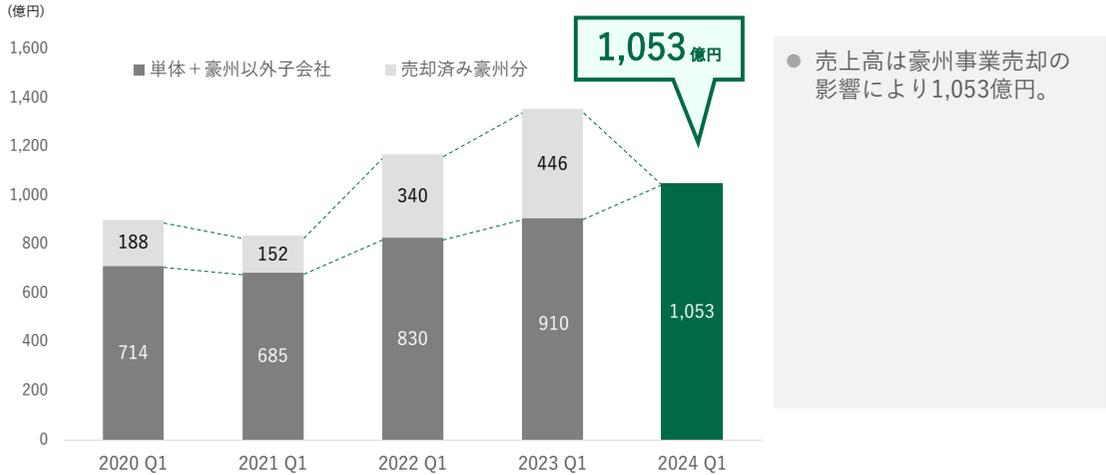
- 2024年2月期Q1は前年同期比で減収減益。
- 豪州子会社の株式譲渡の影響により減益。
- 小売台数は増加したものの小売台粗利は減少。

今期第1四半期、3ヶ月間のハイライトです。

単体の小売販売台数は39,266台と四半期で過去最高の台数となりました。昨年度までにオープンした大型店が好調に推移しています。

連結のPLでは、豪州事業売却の影響により売上高が減。

営業利益は小売台粗利が予想よりも低く、前期並みに留まった事、販管費が下期の大型店のオープンに備えた採用増などにより増加したことにより、減益となりました。

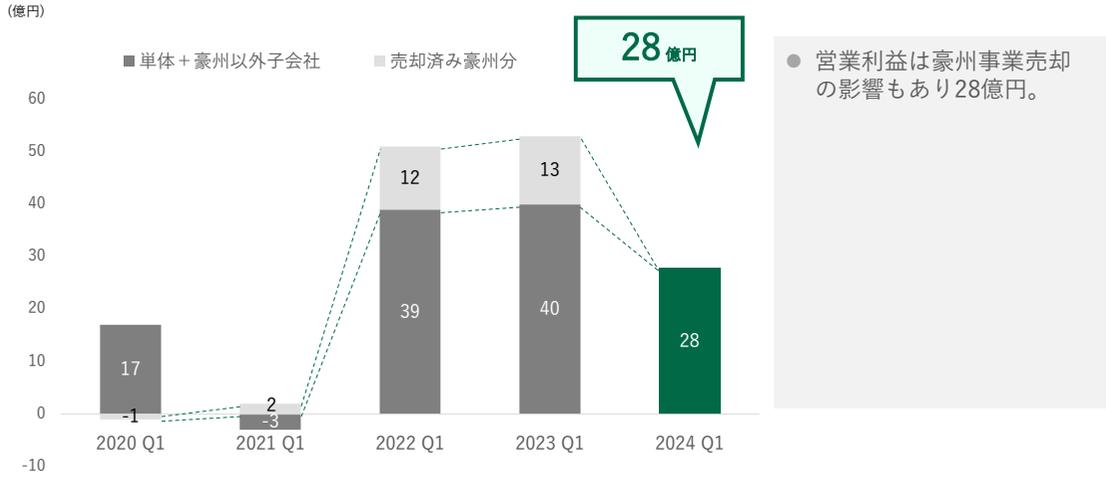


※グラフ・表などの数値は単位未満を四捨五入、比率は百万円単位で計算後、単位未満を四捨五入して表示。

※「2024 Q1」表記は、2024年2月期 第1四半期を示す。

ここからは連結の第1四半期の売上高と営業利益のトレンドについてお話しします。

まず、売上高推移です。豪州事業の売上高が前年第1四半期まで残っていますので、減収となっていますが、豪州事業を除いてみると売上は拡大しています。



IDOM Inc. ※「2024 Q1」表記は、2024年2月期 第1四半期を示す。

次は営業利益の推移です。この3ヶ月の営業利益は28億円と3年ぶりの減益となりました。

連結

第1四半期P/L実績

Gulliver

(億円)	前期	今期	前期比
	2023・Q1	2024・Q1	
売上高	1,356	1,053	▲303 ▲22.4%
営業利益	53	28	▲25
営業利益率(%)	3.9%	2.6%	▲47.3%
経常利益	51	27	▲24
経常利益率(%)	3.7%	2.6%	▲46.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	54	19	▲35
四半期純利益率(%)	4.0%	1.8%	▲65.3%

- 豪州事業の売却に伴い、売上高が減収。
- 各段階利益（営業利益・経常利益・当期純利益）において、前年同期比で減益。
- 前期の四半期純利益は、豪州事業の株式譲渡に伴う税効果の認識あり。今期は通常の税負担率。

IDOM Inc. ※「2024 Q1」表記は、2024年2月期 第1四半期を示す。

7

売上高は既存大型店の販売が好調でしたが、豪州事業の売却の影響もあり、303億円の減収となり、1,053億円で留まりました。

営業利益・経常利益・四半期純利益はいずれも減益となりました。

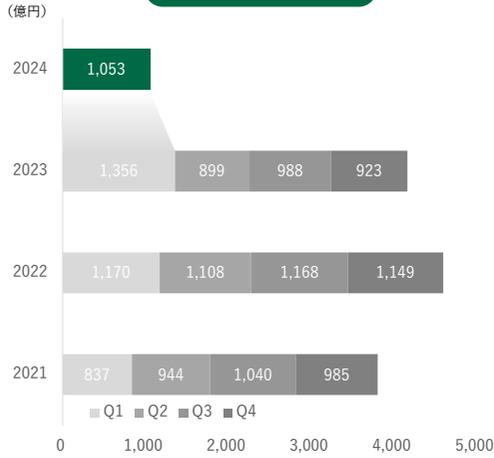
四半期純利益の減益率が大きいのは、前期において豪州子会社買収時ののれんの減損損失による税効果を認識した反動です。当期の税負担率は33%と通常の水準になっています。

連結

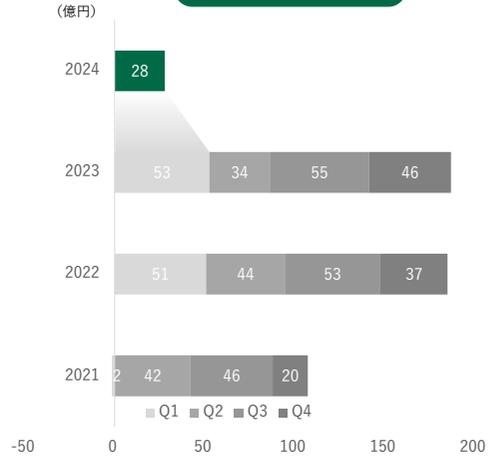
四半期別内訳の推移（直近4期分）



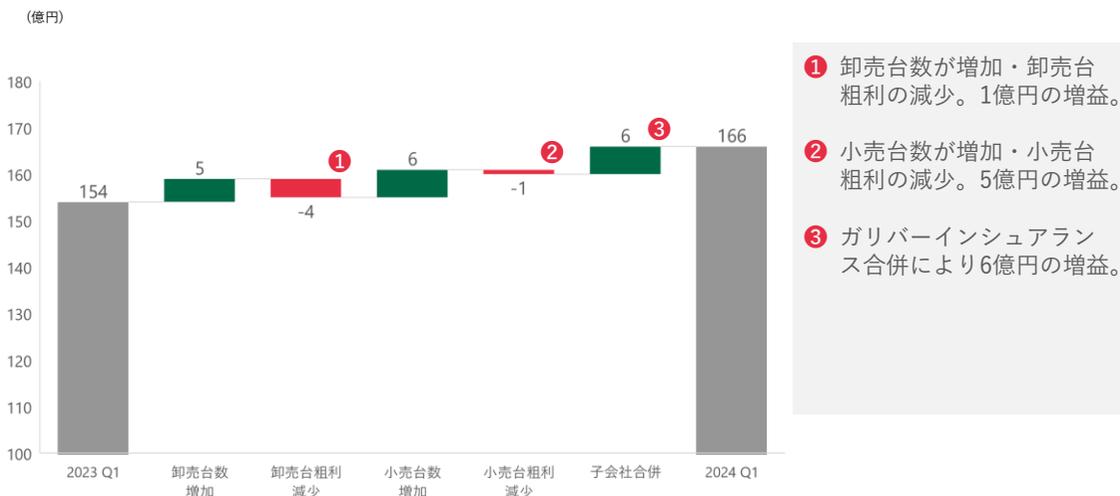
売上高の推移



営業利益の推移



IDOM Inc. ※「2024」表記は、2024年2月期を示す。



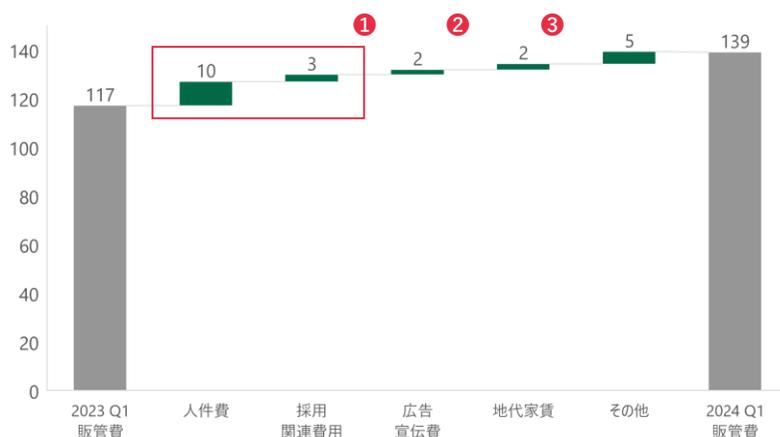
IDOM Inc. ※「2024 Q1」表記は、2024年2月期 第1四半期を示す。

このスライドでは単体の売上総利益の対前年同期の増減要因を示しています。

卸売については台数は増加しました。相場下落の中で卸売台粗利は前年同期の10万円から9万円へと、1万円の下落に留まりました。

小売台数は最初にお話ししたように3ヶ月では過去最高の販売台数となり、既存の大型店が貢献しました。小売台粗利はほぼ前年同期並みとなりました。こうして、売上総利益は単体で12億円の増益となりました。

(億円)



- ① インセンティブ、下期大型店出店へ向けた有期社員の採用により人件費が増加。
- ② 販売台数促進のため。
- ③ 本部移転、店舗増加により地代家賃の増加。

IDOM Inc. ※「2024 Q1」表記は、2024年2月期 第1四半期を示す。

続いて、単体の販管費の増減要因です。

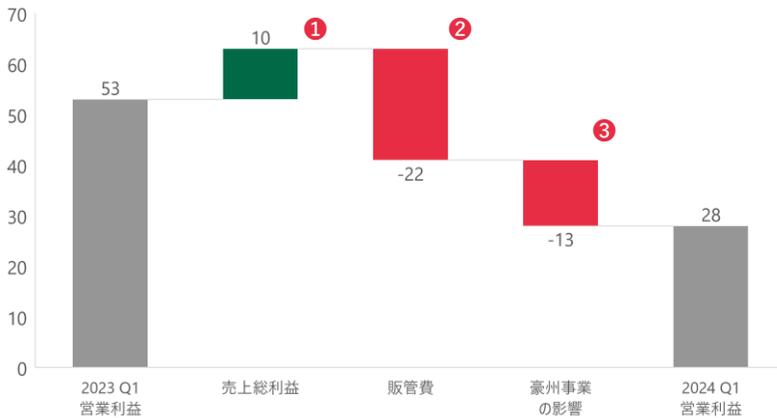
販管費については効率的な使用に努めていますが、この3ヶ月に限ると利益のタイミングと支出のタイミングとにズレが生じた面もありました。

人件費は下期の大型店出店に備えて、新卒・中途・アルバイトの採用を積極的に進めました。

また、人件費には今年1-2月のインセンティブも含まれています。

その他、広告宣伝費・地代家賃が増加しました。

(億円)



- ① 売上総利益が10億円の増益。
- ② 販管費が22億円増加。
- ③ 豪州子会社の株式譲渡により13億円の減益

IDOM Inc. ※「2024 Q1」表記は、2024年2月期 第1四半期を示す。

11

このスライドは連結の営業利益の前年対比の増減要因を示しています。

豪州事業売却の影響を除くと、売上総利益が10億円増加したのに対して、この3ヶ月の販管費は22億円増加しました。この結果、営業利益は25億円減益の28億円となりました。

連結・貸借対照表（2023年5月期末）

資産 1,582億円	現預金 340億円	負債 962億円	有利子負債 521億円	
	在庫 723億円		その他 440億円	
	有形固定資産 271億円	純資産 620億円	620億円 (自己資本比率39%)	
	その他 248億円			

- 総資産は1,582億円。
- 在庫は前期末比121億円減少。
- ネット有利子負債が前期末比115億円減少したことにとまない連結自己資本比率は前期末の36%から39%へ増加。

バランスシート of の状況です。

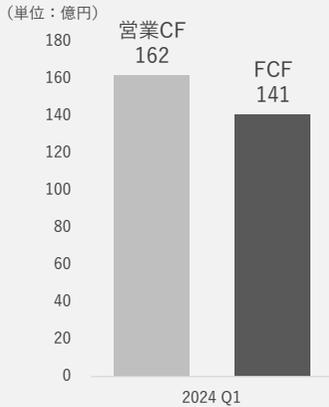
総資産は約150億円減少して1,582億円。

在庫が121億円減少して、723億円になった事が総資産減少の主な要因です。

ネット有利子負債は115億円減少し、181億円となりました。

これにより自己資本比率は39%となっています。

Q1連結キャッシュ・フロー



単体期末在庫金額と
在庫回転日数



- 営業キャッシュ・フロー、フリー・キャッシュ・フローはそれぞれプラス。
- 販売需要に応じた在庫コントロールを実施した結果、前期末比で在庫金額・回転日数ともに減少。

※当社では第1四半期及び第3四半期の要約キャッシュ・フロー計算書を任意開示しております。
※「2024 Q1」表記は、2024年2月期 第1四半期を示す。

IDOM Inc.

13

連結のキャッシュフローの状況です。

営業キャッシュフローは在庫の圧縮もあり、162億円のプラス。

一方で、投資キャッシュフローは大型店・整備工場の出店が無かったこともあり、投資額は少なく、フリーキャッシュフロー(FCF)は141億円のプラスとなりました。

続いて、単体の在庫についてです。

在庫台数は55千台と前年末比で約7500台減少し、685億円となりました。

在庫コントロールを継続しており、在庫回転日数は前期末の86日から78日に減少しました。

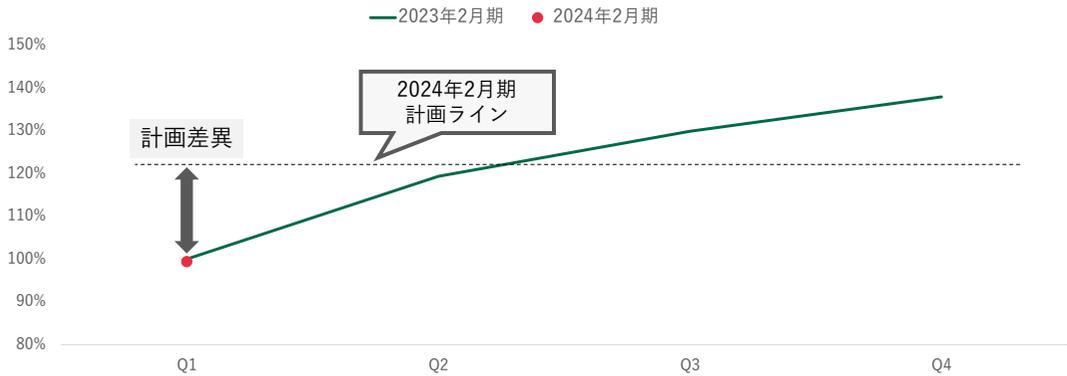
		2024年2月期 第1四半期	2024年2月期 上期計画	2024年2月期 上期進捗
台数	販売台数(台)	73,584	126,000	58.4%
	小売台数(台)	39,266	71,000	55.3%
	卸売台数(台)	34,318	55,000	62.4%

小売台数、卸売台数はともに上期計画の5割を超えており順調に推移。

ここからは業績予想の前提と第1四半期のポイントについて、お話しします。

小売台数の当初の予想は年間：144,000台、上期：71,000台と設定していました。

第1四半期の実績は39,266台でしたので上期計画に対して、55%と想定以上に進捗しました。



戦略として小売台数を増やすことに注力した結果、小売台粗利が昨年Q1並みとなり計画に劣後。適正な粗利を獲得することで台粗利の回復を目指す。

IDOM Inc. ※2023年2月期 Q1の台粗利を100%とする。

15

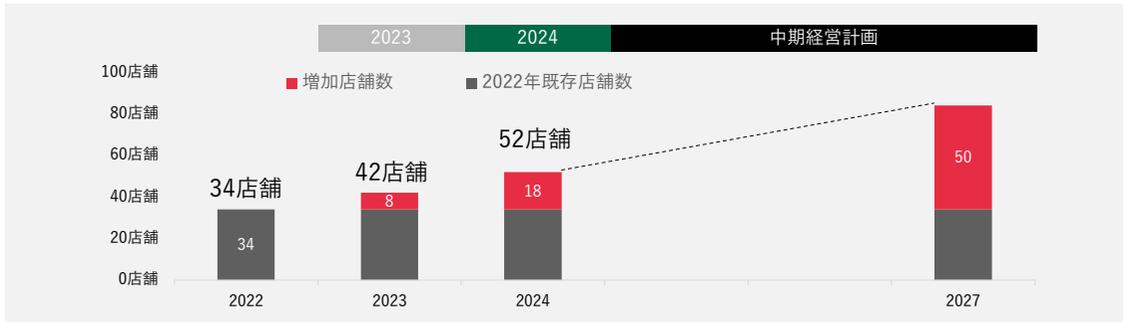
このスライドは昨年の第1四半期からの小売台粗利の推移を指数化して、緑の折れ線で示したものです。

今期の業績予想における小売台粗利は昨年の年間平均と同水準と設定しましたので、その水準を「計画ライン」として、点線で横に示しております。

当第1四半期の小売台粗利は赤いドットで示しています。前年同期とほぼ同水準ですが、業績予想の前提と比較すると、計画差異が生じています。

今期の販管費の実績から見て、小売台粗利の低下が営業利益減益の大きな要因になっていると考えています。

大型店の出店進捗（2023~2027）



2024年2月期は、上期の出店予定はなし。
下期に10店舗出店を計画。

IDOM Inc. ※「2024」表記は、2024年2月期を示す。

16

今年下期には10店舗の大型店の出店が予定されています。

第1四半期の営業利益の結果はやや業績予想に対して弱かった認識ですが、今後、販売台数の好調を維持しつつ、小売台粗利の改善に努めて、販管費の効率的な使用を継続して参ります。

上期・年間の業績見通しの実現に向けて取り組んで参りますので、引き続き、宜しくお願い致します。